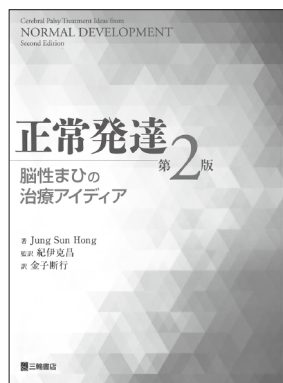


## 書評

Jung Sun Hong(著)  
紀伊克昌(監訳)・金子断行(訳)

### 正常発達(第2版) 脳性まひの治療アイデア

評者 山川友康  
(宝塚医療大学保健医療学部理学療法学科)



脳性まひ児の治療を実践するセラピストにとって、正常発達を研究することは必須の責務である。小児リハビリテーションに携わる理学療法士・作業療法士には、正常発達への深い知識と理解が求められる。

本書は、姿勢コントロールの重要な成熟要素を、胎児期から生後12か月まで5段階に分けて、乳児が日常生活のなかで正常運動をどのように獲得していくのかを、豊富なイラストとともに、平易にクリアカットに解説しているのが特徴である。

脳性まひの主要な問題は、全身の連結不足と不良なアライメントである。これは正中位指向性や抗重力活動の発達を遅延させるとともに、姿勢のアライメントおよび関節構造を変化させて、二次的な関節拘縮や変形を生じさせる。さらに、筋の未成熟と感覚運動能力の乏しさは、脳の損傷がすべての原因ではなく、母親の子宮内での在胎週数が短いことや屈曲運動の機会が少ないことが問題を助長させる。

個々の子供の治療プログラムの立案には、正常発達と正常運動に基礎を置いた、バリエーションに富んだ運動評価が必要になる。第2版では、脳性まひを「痙直型両まひ」、「痙直型四肢まひ」、「アトローゼ型」に分けて、その疾患特有の臨床像から質的な問題の分析と有効な治療プログラムの立案を明確に想起・理解できるように配慮して構成されている。

著者のJung Sun Hongは理学療法士である。アジア小児ボバース講習会講師会議が認定する小児ボバースシニアインストラクターであり、韓国における小児リハビリテーション領域の第一人者として活躍している。韓国国内で初のアジア8週間講習会を開催し、アジア各国からの多くの参加者に小児リハビリテーションの知識と技術を提供し、アジアの小児リハビリテーションの発展に多大な貢献をするとともに、日韓のリハビリテーション交流に、長年継続して尽力してきた功労者でもある。

翻訳および監訳を担当された紀伊克昌氏と金子断行氏は、脳性まひを含めた中枢神経系疾患の理学療法に長年にわたって携わってこられた、キャリア豊富な理学療法士であり、今回の翻訳者として最適任者であると考えられる。

以上の視点から、小児理学療法の専門家をめざす理学療法学生をはじめ、すでに小児理学療法の領域において業務を担う理学療法士に対して、示唆に富む教科書として本書を推奨したい。

● B5判, 200頁, 4色刷  
定価: 本体 3,800円+税  
三輪書店刊, 2014年